学校だより

戸塚小だより

川口市立戸塚小学校
令和６年７月１日
電話０４８（２９５）１８１０
児童数　　６９５名

笑顔いっぱい　夢いっぱい　未来へはばたけ戸塚っ子

やらなければできない

校長　林　奈緒美

「やればできる」―　私は、この言葉が大嫌いでした。

かけっこ、鉄棒、ボール遊び…小学校入学前から、体を動かすことは好きでした。ただ一つ、泳ぐことを除いて。大抵のことは「こわい」と感じるより興味の方が勝っていましたが、「水」に対する恐怖心だけは強く、水に顔をつけることができません。布団の上で、前方倒立回転やバク転をやらせてくれた父は、娘二人（姉と私）を泳げるようにもしたかったのでしょう。これといった娯楽のない地元で唯一のスポーツセンターのプールへ、よく連れて行かれたものです。そして、父の期待通り、姉はすぐにスイスイ泳げるようになり…私はがんとして水に顔をつけることを拒み泣いて逃げ回っていました。そのプールに、これでもかと大きく掲げられていたのが「やればできる」です。

幸い（？）入学した小学校は新設校でプールはまだありませんでした。「学校」は、いつの間にか「みんな」を見て、「みんなの中の自分」に目を向けるようになる不思議なところ。私も、自分だけの世界から、周囲を含む自分の世界へと住む世界を広げていけたのだと思います。「自分だけ泳げなかったらどうしよう！」そんな思いを抱くようになり、こっそり泳げるようになろうと考えました。「水に顔をつけなくても泳げればいいんだ！」早速、仲良しの友達と例の「やればできる」プールへ出かけました。連れて行かれるプールでなく、自ら出かけたプールは自由です。顔をあげたまま、手足をばたつかせてみると…体が浮いています、進んでいます、泳げます！楽しくなって、水が顔に跳ねるのも気にならなくなりました。そのうち、顔を上げていると下半身が沈んでしまうことに気づき、思い切って水面に顔をつけてみました。すると、ずっと楽に体が浮くのです。

２年生、完成したプールでの授業が始まりました。当時、夏休みはお盆を除いてほぼ毎日学校のプールが公開されていました。５年間、夏休みのプールは皆勤賞（他に行くところがなかったので…）、真っ黒に日焼けして、市内の水泳記録会にも参加しました。それでも、水は怖いし、泳ぎは好きにはなれませんでした。なるべく、水に顔をつけずに済むように、遠くへ飛び込むことに磨きをかけました。（笑）※飛び込みも学習していた時代です。

「やればできる」―できないことだってある！やりたくないし！反論したくなることも。ただ「やらなければできない、始まらない」のは事実。自分からチャレンジしたら、きっと新しい世界は広がるはず。学校という、たくさんのいろいろな仲間との日々は、子どもたちの視野を広げ、一歩を踏み出すきっかけや勇気となるものだと信じています。